

令和5年度 学校評価書

幼稚園名： 焼津市立大井川西幼稚園

幼稚園においては学校教育法及び学校教育法施行規則により学校運営の状況について評価を行い、その結果を公表することが義務づけられています。つきましては、本年度実施した保護者アンケート及び教諭自己評価をもとに作成した学校評価書を公表します。

<評価方法>

- ・下記項目による保護者アンケート及び教諭自己評価を実施し、回答を点数化したのち、その平均点により総合評価を判定しました。
- ※点数は左記のとおり<A…そう思う(4点)/B…どちらかといえばそう思う(3点)/C…どちらかといえばそう思わない(2点)/D…そう思わない(1点)>
- ・項目1～20は保護者及び教諭が、21～45は教諭のみが回答しました。

No.	項目	平均点
保護者・教諭 同一項目	1 幼稚園に通うことを楽しみにしている。	3.7 /4
	2 安心して自分の思いを出し、元気に遊んでいる。	
	3 友達と一緒に遊び、友達と共に過ごすことを楽しんでいる。	
	4 遊びや集団生活に必要な『きまり』があることを知り、守ろうとしている。	
	5 様々な物事に興味、関心を示し、知的好奇心、思考力、感動する心が育ってきている。	
	6 自ら、好きな遊びを見つけて遊んでいる。	
	7 思いやりの気持ちや我慢する気持ちが育ってきている。	
	8 家族や幼稚園職員に挨拶をしている。	
	9 体を動かすことが好きになり、体力がついてきている。	
	10 園目標「明るく・優しく・元気な子」に近づいてきている。	
心保に護つ者へへの対	11 幼稚園は子どもの成長の状況を保護者に伝えている。	3.8 /4
	12 幼稚園は保護者が子どもの成長に気づくための機会(参観日等)を作っている。	
	13 幼稚園は子育ての悩みや相談に、丁寧に対応している。	
	14 幼稚園は保護者同士が親しく交流できる場となっている。	
に安つ全い対策	15 幼稚園は保育室、遊戯室、園庭等において園児が安全に過ごせるようにしている。	3.8 /4
	16 幼稚園は安全対策について園児及び保護者に知らせている。	
	17 幼稚園は地震や火災等の災害時の対応を明確にし、訓練等により園児が安全に避難できるようにしている。	
教諭項目	18 子ども一人一人の人權を尊重し、それぞれの長所を把握している。	3.7 /4
	19 教育要領に基づき子どもを保育し、適当な環境を与え、心身の発達を助長するよう努めている。	
	20 子どもの個々の発達段階に応じて、基本的な生活習慣を定着させるよう努めている。	
	21 保育の考え方について保護者と相違があった場合、その保護者の状況や考え方を受けとめたくて説明するよう努めている。	
	22 個々の家庭環境が違うことを考慮したうえで、その子どもに適切な保育を考え、行っている。	
	23 幼稚園の教育は子どもの生涯にわたる人格形成の基礎を培う大切な役割を担っていることを認識している。	
	24 子どもの状況に合わせて、人的・物的な工夫をもって環境の構成を行っている。	
	25 子どもが思い切り遊ぶことができるように、子どもと一緒に体を動かしている。	
	26 一人一人の子どもに目を配っていたかを振り返り、自身の保育の課題を見つけている。	
	27 子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう、子どもとの信頼関係を築く努力をしている。	
	28 時節に合った掲示物やコーナーによる室内環境作りに努めている。	
	29 子どもが快適に過ごせるよう保育室内を清潔に保っている。	
30 子どもが自発的に保育室内の環境を整える(遊び用具や掃除用具の片付け等)ことを促す工夫をしている。		
31 時間や提出物の期限を守っている。		
32 明日の保育に向け環境、教材等の用意をしている。		
援助導に計画、いて週案、幼児理解、環境	33 幼稚園教育要領及び自園教育課程を基に、実態に合わせた指導計画を作成している。	3.6 /4
	34 子ども一人一人の実態(発達の状況や興味の対象等)を把握したうえで指導計画、週案を作成している。	
	35 子どもの意欲を誘うよう十分工夫した環境構成がされた週案を作成している。	
	36 支援を要する子どもに対し、その子どもに適した環境を準備し、具体的な対応をしている。	
	37 補助教諭がいる場合、両者の役割や子どもへの援助の方法等をよく話し合い、計画を立てて保育を進めている。	
	38 指導計画、週案と実際の子どもの状況、興味、関心が合っているか、という観点で自身の保育を評価している。	
	39 『園の教育理念、方針、目標』『自身の指導計画・週案の内容やねらい』を保護者が理解できるように説明することができる。	
	40 日々の保育が適切であったか判断し、適切でなかったと思われる点については、改善に向けた保育を計画し、実践している。	
	41 園長及び副園長・主任教諭は自身の立場を自覚し、他の職員の手本となるよう努めている。	
	42 園長及び副園長・主任教諭は園の運営についてお互いによく協力し、行っている。	

総合平均点数	総合評価(評価項目の達成及び取組状況)
4~3.1	A…十分達成されている
3~2.1	B…達成されている
2~1.1	C…取り組まれているが、成果が十分でない
1~0	D…取組が不十分である

総合評価	総合平均点数
A	3.7 /4

<本年度の幼稚園運営の振り返り>

・総合評価を受けての所感

子供たち一人一人の遊びがじっくりと取り組めることを大切にしながら、友達と一緒に遊ぶ楽しさ、繰り返し遊ぶ楽しさを味わうためには、どうしたらよいか職員間で日々、話し合いを行い保育を進めてきました。子供たちが毎日、元気に幼稚園で過ごせること、保育者が園目標である『明るく・優しく・元気な子』に向けて保育ができることは、保護者の皆様のお力添えをいただいているおかげだと心から感謝いたします。子供たちは、各学年での遊びを楽しみながら、2学期後半の時期から、いろいろな学年の子供たちが混ざり合い遊ぶ中で、年下の子に優しく関わる姿、年上の子に憧れる姿が自然と見られ、クラスとしても、一人一人の姿からも成長を感じます。

・本年度努力した点、改善した点

昨年度から、『にっこ避難訓練通信』を配付し、幼稚園で行っている避難訓練の様子や幼稚園で過ごしている時に災害が起きた場合の対応の仕方をお知らせしています。全国各地で災害が起きている状況の中、昨年度末に保護者の皆様を対象に防災について、どのようなことを知りたいのかアンケートを取り、その結果をまとめた内容から保護者対象とした防災講話を3回行いました。防災講話後のアンケートでは、防災についての知識が高まった方や幼稚園で講話を行ってくださることで参加しやすい等の感想をいただきました。今後も、防災についての発信を行っていくことで、平時からの備えを保護者の皆様と共通理解できるようにしていきたいと思っております。

・苦心した点、反省すべき点

保護者同士の交流の場を幼稚園側でもつことが不足していたと感じます。今現在、在籍している保護者の皆様はコロナ禍の中での子育てを行い、同年齢の子供をもつ保護者同士の交流を行うことが難しい状況にありました。来年度は、どのような交流の場があるとよいのかというアンケートをとっていくことで、保護者の皆様の思いを知り、その思いに沿った交流の場を設けていけるように努めていきたいと思っております。

<来年度の幼稚園運営について（方針、重点内容、改善策等）>

重点目標である『夢中になって遊ぶ子』に近づいていくために、職員間で話し合いを行い、子供たちが「やってみよう」「また、やってみよう」という遊びの場を作り、子供とともに遊びを楽しむ活動を行ってきました。子供たちは、「もう1回やってみよう」「また、やってみよう」と思い、夢中で遊ぶ姿があらゆるところで見られるようになりました。来年度は、子供たちの「また、やってみよう」の思いが、今よりも膨らんでいくように挑戦する気持ちや試行錯誤する思いを大切に、子供たちが思わず繰り返し遊びたくなる場を職員一丸となって作っていききたいと思います。